

## 山本五十六の聖書



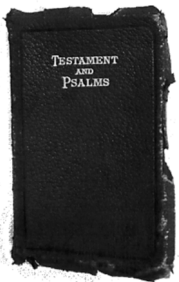
中国での利権を争っていた米国は、日本が邪魔であると、何としても日本と戦争をしたがっていた。しかし、米国との戦争を何とか回避しようとしていたのが、海軍元帥・山本五十六※<sub>1</sub>（海軍兵学校 32 期生、同期：堀 悌吉＝「神様の傑作の一つ、堀の頭脳」と畏敬せしめる程の桁外れの英才）であった（元帥は、軍隊で最上級の階級）。明治、大正時代と、二度米国に駐在し、ハーバード大学にも留学したことのある山本は、その圧倒的な国力の差を知っていたのである。

ドイツではヒトラーが台頭、そのドイツと軍事同盟を結ぼうという動きが日本陸軍から起こる。これに対し、反対を唱えたのが海軍大臣・米内(よない)光政、海軍次官・山本五十六、軍務局長・井上成美(しげよし)であった。

日独伊三国同盟に最後まで反対した山本を、右翼は国賊（国家に害を与える人）と呼び、暗殺の噂も流れた。

井上成美は、青年時代洗礼を受けているクリスチャンであった。また、「常在戦場」を座右の銘とした、山本五十六も聖書を読んでいた。新潟県長岡市にある、山本五十六記念館の展示物に、山本が駐米時代に入手した英文の聖書が展示されている。

山本は、中学で英語教師をしていたニューエル牧師から、キリスト教に親しんでいたのだ。ナチスドイツとの軍事同盟に反対していた三人のうち二人が、聖書を読んでいた。



※1：明治 17 年（1884）4 月旧長岡藩士高野貞吉の六男として玉蔵院町（現 長岡市坂之上町）で生まれる。父 56 歳の時で五十六と名付けられた。明治 34 年（1901）長岡中学を卒業し海軍兵学校に入学。明治 38 年（1905）巡洋艦日進に乗組、日本海海戦において左手指と右下腿部に重傷を負う。大正 5 年（1916）長岡藩家老山本家を継ぎ以後山本姓となる。

山本五十六が携行していた英文聖書（撮影：鈴木範久氏）

参考：[軍国少年の憧れだった海軍大将、山本五十六ゆかりの聖書とプロペラ](#)  
聖書を読んだ 30 人～夏目漱石から山本五十六まで～ 日本聖書協会

エフェソの信徒への手紙 6：13

だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。

山本五十六、座右の銘「常在戦場」（長岡藩 - 新潟県長岡市 - 牧野家の家訓）



【参考】当館常設展示では、五十六さんがアメリカ駐在時代に求めた聖書を展示しております。

小型版で、TESTAMENT AND PSALMS と金文字の題名が入っています。

当館運営法人発行機関紙に以前ご寄稿くださった専門家：鈴木範久氏の寄稿文を参照いたしますと

・英文の新約聖書

・1925年にアメリカ聖書協会から刊行 と解説しておられます。

ご参考まで上記機関紙の該当部分※2を添付いたします。

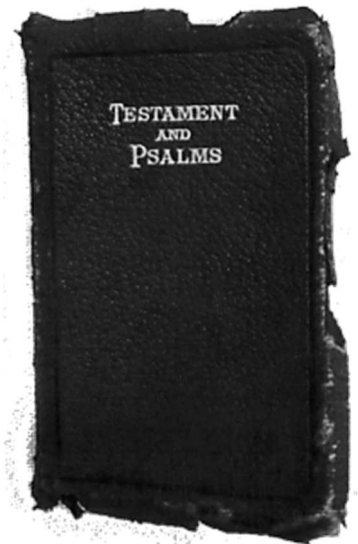
・・・・・・・・上記は質問メールに対する、回答文（メールの一部）です・・・・・・・・

山本五十六記念館 〒940-0056 新潟県長岡市呉服町 1-4-1

TEL 0258-37-8001 (FAX 兼用) <http://yamamoto-isoroku.com/>

※2：以下、メールの添付ファイル（PDF版）を切り取り加工しています（谷口）。

聖書は小型の英文新約聖書である。五十六とキリスト教との出会いは、子供のころ長岡中学校の教師として着任していた宣教師ニューエルのもとに通っていたときである。ニューエルが長岡を去るときは見送りに出ている。この長岡時代のニューエルについては、これまた古くからの友人本井康弘氏（前同志社大学教授）の研究が役立った。五十六の英文聖書は、一九二五年にアメリカ聖書協会から刊行されたものである。その翌年に五十六は大使館付武官として赴任しているから、そのとき入手したもの。



山本五十六愛用の聖書  
(山本五十六記念館蔵)

また同時期にやはり武官として武井大助も赴任していたが、武井はキリスト信徒だったから、その影響もあるかもしれない。武井は山本の没後『山本元帥遺詠』を出している。戦後、文化放送社長やYMCA同盟委員長にもなる人物である。